

# 新・こどもと健康

No.3

2016.9.16

いよいよ10月1日からB型肝炎ワクチンが定期接種に。  
平成28年4月・5月生まれの方はお急ぎください！

厚生労働省の予告通り、B型肝炎ワクチンが10月1日から始まります。

- ① 定期接種対象者は平成28年4月1日以降に生まれた方です。それ以前に生まれた方は任意接種のままです。
- ② 1歳未満までが対象です。厚生労働省から各自治体に通知された概要には、生後2か月から9か月未満を標準的な接種期間とし、27日以上の間隔をあけて2回接種、さらに1回目の接種から139日以上の間隔をおいて、3回目を接種するという文言が示されました。2回目と3回目の間隔は最低6日間ですが、できるだけ2か月以上空けるようコメントが出ています。
- ③ 3回打つのに5～6か月かかります。1歳未満までに公費で完了させようとする、4・5月生まれの方は、時間的余裕がありませんのでご注意ください。1回目と3回目の間隔のしびりがあるので、とにかく1回目を早くしてください(もし3回目が1歳以上になったら、任意接種としての接種は可能です)。
- ④ 定期接種開始以前に任意で1回目や2回目までを接種されている方は10月1日以降、残り分を(1歳未満で、間隔が合えば)定期接種で受けていただくことが可能と同概要に示されました。
- ⑤ B型肝炎ワクチンの製品名としては、ヘプタバックスⅡ<sup>®</sup>とビームゲン<sup>®</sup>がありますが、どちらを使っても、どう組み合わせてもいいとされました。

## なぜB型肝炎ワクチンが必要なのでしょう？

B型肝炎ウイルスは感染力の強いウイルスです。全世界にはB型肝炎のキャリア(ウイルスを排除できていない状態＝持続感染者のことをいいます)が、アジアやアフリカを中心に3億5千万人以上、日本では高年齢層を中心に人口の約1%(100万～130万人)いるとされます。幼少期(特に5歳未満)に感染すると、小さいほど高率にキャリア化します(出生時約9割)。それより年齢が上がっていくと、在来種ではあまりキャリア化しなかった(見た目は一過性感染で終わる)のですが、近年入り込んできた外来種では割と高い率でキャリア化します(5～10%、高い報告では20～30%)。以前の常識では血液感染(針刺し事故、不衛生な刺青・ピアスの針の共用、かつての集団予防接種の注射器の連続使用、麻薬常習者の注射器の使い回しなど)、性的感染などが主な感染ルートでしたが、最近ではキャリアの汗や涙、尿などにもウイルスの存在が証明されており、おそらく体液を介したと考えられる保育園での集団感染やスポーツ選手間での感染が報告されています。

世界保健機構(WHO)は1992年にB型肝炎ワクチンの定期接種導入を宣言し、

2011年の時点で国連加盟国193か国中、180か国で定期接種化されていました。一方、日本では母子感染予防で封じ込めると見積もっていたため、B型肝炎ワクチンを受けていない人が大多数でした。そうするとB型急性肝炎患者が若者成人を中心に年に2,000人程度、不顕性感染者も含めると同5,000～10,000例程度発生していると推計される状況になってきました(うち約半数は性感染症と推定)。

現在、B型肝炎ウイルスを完全に排除する治療法はなく、予防するワクチンが必要です。定期接種になるのでこれからの世代は免疫ができますが、定期接種対象でない世代も性感染症予防として打つべきと考えます。アメリカでは1997年に18歳未満を接種対象に拡大、イタリア、ドイツ、フランスでは1991～1995年のB型肝炎ワクチン導入時に新生児だけでなく、思春期も対象にしました。

## 「はしか」について

関西国際空港職員や尼崎市の保育所、千葉県などで麻疹の集団感染が報道されています。日本はつい最近まで(先進国としてはあり得ない)麻疹輸出国と呼ばれていました。2007～2008年には大学生を中心に麻疹の大流行が発生し、2008～2012年度に限り中学校1年生と高校3年生にそれぞれ第3期と第4期の麻疹ワクチン定期接種法を作って、2回目の接種として施行しました。先に2006年から1歳と年長さんの2回接種が定期接種となっていたのも効果を発揮して、2015年3月にやっと麻疹排除状態と認めてもらえるようになったところでした。

麻疹は潜伏期間が約10～12日であり、症状の出る前日から解熱後3日間を経過するまで他人に感染する可能性があります。どんなに広い場所でも、免疫がなければ同じ空間にいるだけでほぼ100%感染かつ発症する恐るべき感染力、発症力を持ちます。WHOは世界では2014年の1年間に114,900人が麻疹で亡くなっていると報告しており、先進国であっても致死率は0.1～0.2%あります。

日本土着の麻疹は最近発生しておらず、近年の麻疹は海外からの輸入ウイルスが原因です。麻疹に特効薬はなく、予防接種しかありません。定期接種を受けられる対象のお子さんは確実に2回ともMRワクチンを受けましょう。

乳児を除いて、定期接種を受けているとして、2回接種の対象とならなかった世代から、自然に麻疹の免疫をつけてきた世代の間の方(ワクチン1回接種のみで、自然曝露もあまりなかった世代＝26～39歳位)に麻疹の免疫が弱い方が多そうです。2回目の麻疹ワクチンは任意(自費)で受けることができますので、できればしておいた方がいいと思いますが、今回の騒ぎでワクチンはすぐに不足しています。とにかく今の流行が収まって、安定供給になって欲しいものです(国はアウトブレイクに備えて麻疹ワクチンの備蓄をしておくべきでしょう)。

## 10月の担当医変更のお知らせ

1日(土)午前診	片桐 → 赤澤
11日(火)午前診	赤澤 → 片桐
15日(土)午前診	片桐 → 赤澤

(後日変更になる可能性がありますので、最新情報を確認してください)